

# 自分を客観的に見ることが出来れば

脇・奥村そして岡田科長 どうですか？

Z 4

2008. 9. 1

J R 東海 労 東 二 運 分 会

1 日夜、福田首相の辞任会見を見たと思う。記者の最後の質問に対して首相は「私は、自分自身のことは客観的に見ることが出来るんです。あなたと違うんです」と語気を強めた。記者の質問の真意は分からないが、首相がかなり感情的に応えたのが印象的だった。

ところで、パワ・ハラ、人権侵害、プライバシーへ侵入の3科長は、今どのような気持ちなのか聞いてみたい。科長としての責任感からではあったとしても、言っては、書いてはいけないことを「科長」という肩書きで言葉や文書にしたことは事実として一生残る。「科長」という自分自信を、管理者なら何でも言える、何を書いても許されると思っているのか？

少なくとも科長は、福田首相のように「自分自身のことは客観的に見ることが出来る」ことが大切だ。自分自身が得た「情報」や「自白」させたことを不特定多数の人に暴露したり、「自白」を強要し所員を恫喝することがどのような意味と影響があるのか、を考えない自分自身を、客観的に見る必要がある。

このことに全く無自覚なら、反省するべきだ。逆に自覚しているとすれば、奥村指導科長流に言えば「確信犯的」誤った労務管理そのものとしか言いようがない。しかし、いずれも許される行為ではない。

自分自身を客観的に見ることが出来れば「確信犯的」労務管理など出来るはずがない、と期待する。これはチームリーダーの考えの反映でもある。科長自らの～努力と周囲のサポート～を期待する。

「我がチーム 確信犯的 NO 1」 C D 頑 爺